

一般社団法人 日本キッズバイク安全普及推進協会
Japan Kids bike Safety Association

JKSA

magazine

TAKE
FREE

キッズバイクライフを 楽しむために



どこでも遊べるわけではありません 子どもが安全に走れる場所は？

1

クルマが走らない場所で遊ぶ

必ず安全な場所で遊びましょう。まずは、自転車遊びが認められる公園や空き地を探します。子どもは運転に慣れていないので、どのように動くか予測できません。「車道が近い」などクルマが走る場所も確認してください。

2

凹凸の少ない平らな場所を選ぶ

バランス感覚を練習している時は、急な道路の変化に対応できないので、転んでしまうかもしれません。なるべく、凹凸のない場所を選んでください。草におおわれた場所には地面に凹凸があるかもしれませんので注意を。凹凸がある場合はバランスを保って走れるようになるまでは気をつけて走行しましょう。

※キッズバイクとは・・・
当協会では「幼児を対象としたペダルのない二輪車(ランニングバイク)」と「小学生以下の児童を対象とした自転車」をキッズバイクと称します。

はじめてキッズバイクに乗る日がやってきました。

子どもたちにとっても、この日は大切なスタートになることでしょう。

これからの楽しいキッズバイクライフを送るためにも、

まずは安全に乗る環境を知りましょう。

5

ランニングバイクは必ず保護者同伴で

ランニングバイクに乗れるようになって、必ず保護者と一緒に遊んでください。時々、声をかけて、安全を確認することが大切です。子どもにとっても、親と一緒に楽しんだことが、いい思い出となることでしょう。

4



歩行者や自転車に注意する

クルマが走っていない場所は、歩行者や自転車がたくさんいる傾向があります。まわりの状況を確認しながら、人にぶつかったりしないように注意してください。なるべく広い範囲を見て、他の人の動きも確認してください。

3



急な坂道は走行禁止

ランニングバイクに慣れてくると、子どもたちはいろいろなことに挑戦します。坂道走りたくなるかもしれませんが、スピードが出て非常に危険ですので、急な坂道の走行はしないようにしてください。自転車もブレーキ操作が正しくできるようになるまでは、坂道には十分に注意しましょう。

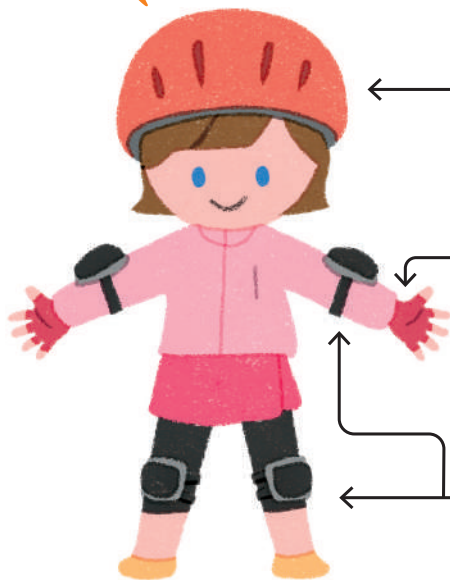


自転車で公道を走るのは“小学生”になってから

幼児が公道を走るとは非常に危険です。安全知識の学びと理解、知識を実行できる体力と技術が整うまでは公道走行はしないでください。小学生になっても、保護者が同伴し、子どもへの指導と安全の確保をしてください。

ヘルメットなど、
身体を守るものを
そろえよう！

時には転んでしまうことがあります。
ケガを防止するためにも、
身体を守るアイテムをそろえておきましょう。
子どもの時から意識づけしておくことは
とても大切なことです。



ヘルメット

頭を守るヘルメットは必須です。自転車のスピードが出ていなくても、転んだ時、バランス悪く、頭を打ってしまうことが多いです。



グローブ

ハンドルをしっかり握る役目もありますが、子どもは思わず手を付くことが多いので、手をガードするためにも、グローブの装着を。



ひじ&ひざ

サイズを合わせて、ひじやひざを守るプロテクターを装着しましょう。子どもにとっても安心感があり、自転車の運転に集中できます。

ヘルメットは正しくかぶろう



前から見て、おでこが少し隠れるようにかぶります。おでこが出過ぎていたり、目のところまで来ていたら、位置を調整してあげます。



転んだときにヘルメットが外れないように、あごひもを締めます。指一本程度が入るぐらいで、緩みがないかを確認してみてください。



ヘルメットを深くかぶって、後頭部をしっかりカバーします。後頭部は特に打ちやすいので、しっかりとチェックしておきましょう。

子ども用のヘルメットを選ぶ



ヘルメットにはサイズがあるので、子ども用を選んでください。すぐに小さくなるから、といって大きめのサイズを選ぶはいけません。

定期的なキッズバイク 点検で安全を守る!

安全に楽しいキッズバイクライフを送るために、車体の定期的な点検を心がけてください。特に自転車は大きな負荷がかかったり、ブレーキがゆるんだり、常に状態が変化します。未然に事故を防ぐためにも、車体点検は大切です。

ランニングバイク



自転車



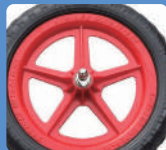
ハンドルのゆるみ

足などで前タイヤを固定してから、ハンドルを切るように、少し力を入れます。この時、ハンドルが動かないことを確認してください。



サドルのゆるみ

体や足の動きに対して、サドルの高さは重要です。サドルがゆるんでいると、突然高さが変わったり、向きが変わって大変危険です。



ホイールのゆるみ

タイヤを手で前後左右に押して、ガタツキを確認します。ネジがゆるんでいて、タイヤが外れることもあるので、気をつけましょう。



タイヤの点検

タイヤに異物が付いていないか、また、ひびや割れが入っていないかを確認します。小石などが挟まっていたら、取り除いておきます。



空気圧チェック

タイヤの空気は少しずつ抜けます。走行前には必ず空気が入っていることを確認しましょう。空気圧が低いとバンクなどの原因となります。



ブレーキのチェック

前後のブレーキレバーを握り、効かかを確認します。その際にレバーがグリップに接触しブレーキが効かない場合は、危険なためメンテナンスが必要です。

室内保管でいつもキレイに!

室内保管をして、いつもきれいなランニングバイクに乗ることをおすすめします。雨やホコリにさらさらなければ、故障も起こりにくくなります。



遊んだ後は簡単におそうじ

キッズバイクをきれいにしておくことは、とても大切です。キッズバイクへの愛着もわき、意識が変わるので、事故を防いでくれる効果もあります。



安全に自転車に乗るために 交通ルールを覚えよう！

公道は小学生になってから

公道を走るのは、小学生になってからがいいでしょう。それまでに、しっかりと交通ルールを覚えておけば、公道も安心です。

歩道は車道側を徐行する

自転車が走れる歩道では、歩行者に気をつけながら車道側を走ります。歩行者が安全に歩けるスペースを確保しておくことが大切です。

横断歩道を渡る

道路を横切る時、横断歩道を利用します。横断歩道を渡る時は、自転車から降りて、手で押して通過することが基本ルールとなります。

公道に出たら、自転車も立派な車両となります。

他の車両と同じように、交通ルールを守って、安全に運転することを心がけてください。

将来のためにも、子どもの頃から、しっかりと交通ルールを覚えることが大切です。

親が同伴してルールとマナーを教え、子どもの走行を見守りましょう

信号は守る

大人でもルールを守れない人がいますが、信号は必ず守りましょう。子どものころから、信号を守ることを、習慣化することがポイントです。

＼自転車の標識を覚えよう！



〔一時停止〕

道路に記された停止線で必ず停止しなければなりません。見通しの悪い交差点などに表示され、事故を未然に防ぐためのルールです。



〔進入禁止〕

車両侵入できない道路の入り口に表示されています。自転車を降りて手で押すか、「自転車は除く」と表記されている場合は通行できます。



〔自転車通行止め〕

この標識があると、自転車のみが通行できません。大きなクルマが通過する道路など、自転車の走行が危険な道路に設置されています。



〔自転車横断帯〕

自転車横断帯がある場所では、自転車は横断帯を渡って、道路を横断しなければなりません。おもに横断歩道の横に設置されています。



〔横断歩道・ 自転車横断帯〕

横断歩道は歩行者のみが通行できる横断帯ですが、この標識がある場所では、歩行者の安全を確保することで、自転車も通行できます。



〔歩行者・ 自転車専用道路〕

自転車と歩行者が通行できる道を表します。自動車などの車両通行はできませんが、自転車も歩行者を優先することが基本ルールです。

JKSA
とは…

子どもたちの安全で楽しいキッズバイクライフを
支える組織としてJKSAは誕生しました。

早い段階から、子どもたちの安全に対する意識を高めることは、
将来的に安全意識を持った"自転車社会人"になるために
非常に重要な第一歩になるといえます。

JKSAはキッズバイクに乗る本来の楽しさを通して、
子どもたちの健全な成長と安全意識を育てていきます。



一緒に
キッズバイクを
楽しみましょう!



JKSA代表理事

井手川 直樹 (いdegawa なおき)

12歳の時に初めてマウンテンバイク(MTB)のレースに初参戦。すぐに頭角をあらわし、16歳でMTBダウンヒル競技の全日本選手権で優勝する。国内外のレースで活躍するかたわら、若手選手の育成やMTB、キッズバイクの普及のために各地で活動する。KONA RACING/STRIDERに所属。

JKSA 一般社団法人
日本キッズバイク
安全普及推進協会

住所：〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-38 YTビル4F
TEL：03-6435-4517 FAX：03-6435-4376 E-mail：info@jksa.org